

# タマスダレ

## 概要

和名（科名）	タマスダレ（ヒガンバナ科）
別名	レイン・リリー
英名	Fairy lily、Rain lily
特徴	鱗茎のある多年生の球根植物である。春から秋にかけて、鱗茎から長さ 20～30cm、幅 4～5mm の線形の葉を出す。開花は7～9月ごろで、葉とは別に花茎を出し、1本の花茎に1つの花がつく。花は白く、上向きに咲く。耐寒性があり、温暖な土地では葉をつけた状態で越冬する。葉をニラと、鱗茎をノビルと間違えて食べて中毒を起こす例が報告されている。花も、葉や鱗茎と同様に食用にしない。
有毒成分	アルカロイド（リコリン）
分布	南米ペルー原産。日本への渡来は、明治初期で、園芸用に広く栽培されるほか、逃げ出して野化することがある。

## 毒性

部位	葉	鱗茎
毒性	中	中
食用の可否	×	×

(写真)



タマスダレの花



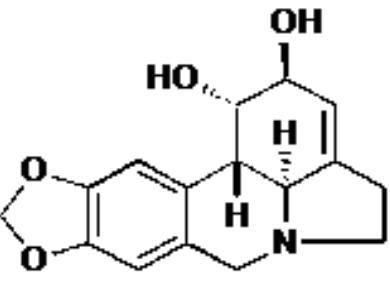
タマスダレの鱗茎

## 詳細

### 1 特徴

一般名	タマスダレ (別名 : レイン・リリー)
英名	Fairy lily、Rain lily
学名	<i>Zephyranthes candida</i> (Lindl.) Herb.
分類	ユリ目 Liliales、ヒガンバナ科 Amaryllidaceae、サフランモドキ属 <i>Zephyranthes</i> (APG 分類体系ではキジカクシ目、ヒガンバナ科、サフランモドキ属)
生育地	南米ペルー原産。 日本には明治時代に渡来し、現在では園芸品として広く植えられる。逸出したものが野化することがある。
形態	多年生の球根植物。春から秋にかけて鱗茎から出る葉は、肉厚で線状または扁平状。葉の長さは 20~30cm、幅 4~5mm。耐寒性で、温暖地では葉をつけた状態で越冬する。花期は 7~9 月。花茎は長さ 20~30cm で、先端に径 4~5cm の花が上向きに咲く。花被は 6 裂、雄蕊は長短 3 本ずつあり、柱頭は 3 裂する。花被裂片の内側は白色で外面基部は淡紅色を帯びる。
	 <span style="display: inline-block; vertical-align: middle; text-align: center;">花</span>  <span style="display: inline-block; vertical-align: middle; text-align: center;">鱗 茎</span>

### 2 毒性成分情報

毒性成分	アルカロイド、リコリン (lycorine)
	 <p style="text-align: center;"><b>lycorine</b></p>
中毒症状	吐き気、嘔吐、痙攣など

発生事例	(症例 1) 2006 年 6 月 29 日、さいたま市の小学校で行われた総合学習授業の中で、ノビルと間違えて 2 日前に校庭で採取されたタマスダレを食べた児童 18 人の内、15 人が吐き気を訴えた。全員、その日のうちに回復した。
中毒対策	全草が有毒だが、鱗茎に特に毒成分が多い。 2006 年（症例 1）以後、中毒は発生していないが、花壇に植栽するなど園芸用に広く利用される身近な植物であるため、タマスダレを栽培するときは外部形態が似ているニラやノビルの生育場所と離れた場所で栽培する。

### 3 その他の参考になる情報

間違えやすい植物	葉がニラ、ノビルに似ている。
----------	----------------